

STAGE+を楽しむ(69)(HP 収載)
—アーノンクールのブランデンブルク協奏曲—

1. 始めに

前報(68)に引き続き、STAGE+のアーノンクールのブランデンブルク協奏曲全集の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、アーノンクールのブランデンブルク協奏曲全集の演奏を選びました。

アーノンクールが紡ぐ《ブランデンブルク協奏曲》全集

ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスと共に

収録日：1982年7月14日

2024年1月1日までの期間限定

ニコラウス・アーノンクールは古楽作品の魅力、そして演奏法を改めて世に知らしめた存在でした。そんな彼の紡ぎ出す音楽は端正、楽曲の細部を読み込むことで生まれる立体的な音楽づくりが魅力です。本映像にはあらゆる楽器が華麗な演奏を聞かせる《ブランデンブルク協奏曲》が収められました。それぞれの楽器に与えられた親しみやすい旋律と技巧的な音型にも感動させられることでしょう。アーノンクールの手兵「ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス」の典雅な演奏はもちろん、彼が奏でるチェロやヴィオラ・ダ・ガンバにもご注目ください。

ソリスト:

アリス・アーノンクール (ヴァイオリン)、フリーデマン・インマー (トランペット)、クリストフ・コワン (チェロ)、ユルク・シェフトライン (オーボエ)、マルクス・シュライヒ (ホルン)、レオポルト・スタストニィ (フルート)、ヘルベルト・タヘツィ (チェンバロ)、ヘルマン・パウマン (ホルン)、エリザベス・フォン・マグナス (リコーダー)、エーリヒ・ヘーバルト (ヴァイオリン)、ハイディ・リチャウアー (チェロ)

演奏:

コンツェントゥス・ムジクス・ウィーン

指揮:

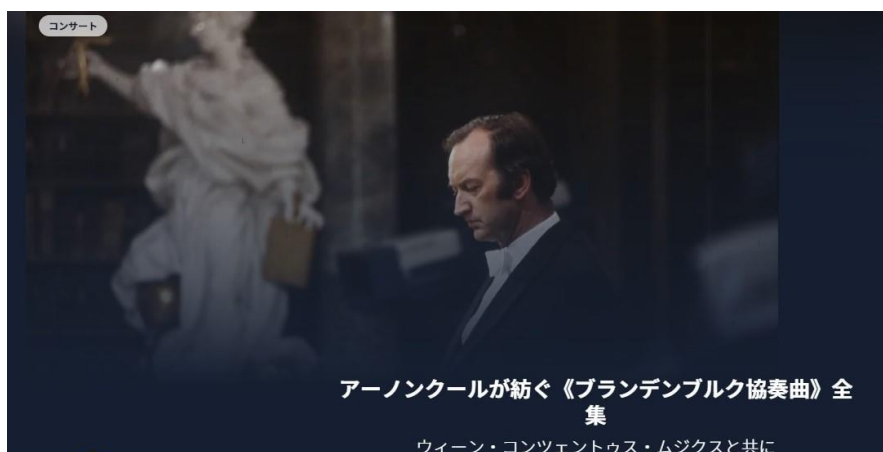
ニコラウス・アーノンクール

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ

ブランデンブルク協奏曲第1番へ長調 BWV 1046

ブランデンブルク協奏曲第2番へ長調 BWV 1047
ブランデンブルク協奏曲第3番ト長調 BWV 1048
ブランデンブルク協奏曲第4番ト長調 BWV 104
ブランデンブルク協奏曲第5番ニ長調 BWV 1050
ブランデンブルク協奏曲第6番変ロ長調 BWV 1051



3. 試聴の経過

画面の幅が狭いのでTV向けの無観客のアナログ収録からデジタル化されたものようです。

収録場所の紹介はありませんが、ホールやスタディオではなく、彫刻などが配置された宮殿の一室のような場所のようです。演奏するメンバーは、編成と位置を変えながら半円形のような配置です。

壮年時代の油の乗り切ったアーノンクールが手兵ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスを率い、独自のバッハの解釈で颯爽と指揮しています。

音質的には最新の収録に比べると、音の解像度は及びませんが、映像でウィーン・コンツェントゥス・ムジクスの使用している、ナチュラルホルン、リコーダー、フルートトラベルソ、バロックオーボエやチェンバロなどの古楽器群が確認でき、典雅な音色が確認できます。アーノンクールがチェロやヴィオラ・ダ・ガンバを演奏することは知りませんでした。指揮から離れ、3番と5番ではチェロを、6番ではヴィオラ・ダ・ガンバを演奏しています。



4. まとめ

以上の STAGE+配信は、追加の LAN iSilencer の効果も加わって、アーノンクール指揮ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスの古楽器群の音色が味わえました。

以上